

国際希少野生動植物種の愛玩目的の流通状況分析

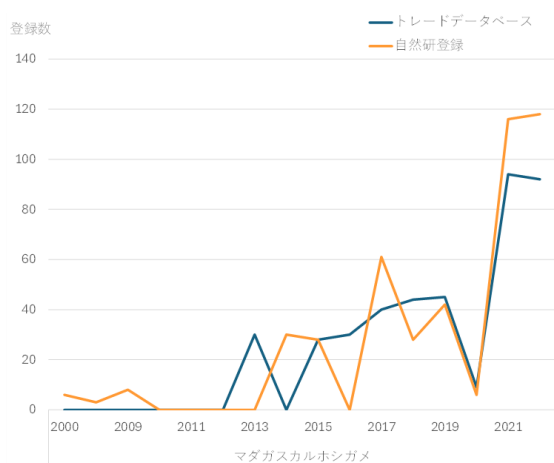
(1) CITES 登録繁殖施設がある種

アジアアロワナをはじめ、このような種については、規制後も安定的な輸入と登録が継続されている。多くの種については、輸入量と登録数に一定の相関関係が見られる。

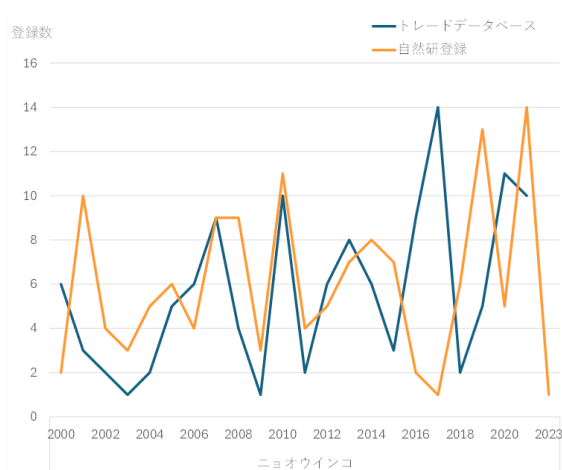
ただし、エキゾチックアニマルブームが一定程度高まった後に規制が始まったボウシインコ類のうち、特にキエリボウシインコについては、輸入量よりも登録数が少ない（未登録個体が多いと想定される）。特に、規制開始から約 20 年が経過しており、当初からの飼養者の高齢化や登録を受けられない（由来が証明されない）個体が多い可能性も懸念される。

さらに、ヨウムについては、2000-2016 年の輸入量が年間 400-1,000 件と高水準であるが、登録数がそれほど多くない（未登録個体が多いと想定される）。また、動物取扱業者へのヒアリングにより、知能の高さや飼い易さ等から需要が高いにも関わらず国内での繁殖は容易でないことから、規制後も卵の密輸が続いていること、最近では鳥インフルエンザ等の影響で輸出を控える繁殖施設が増えているが（最近の輸入個体は病気の発症率が高い地域からのものである可能性さえある）、状況が落ち着いたら輸入量が高水準に戻る事が示唆された。

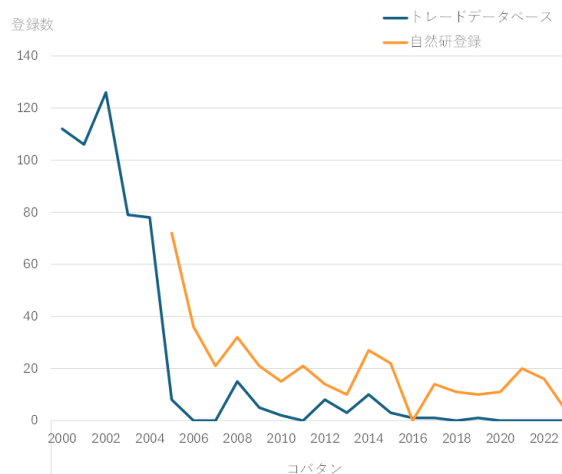
マダガスカルホシガメ（規制開始：1980 年）



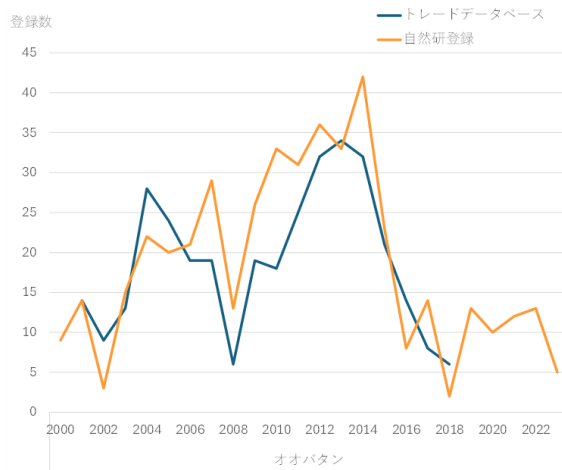
ニョオウインコ（1980 年）



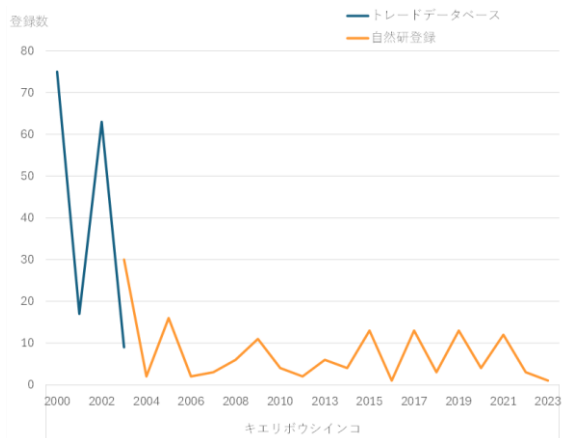
コバタン（2005 年）



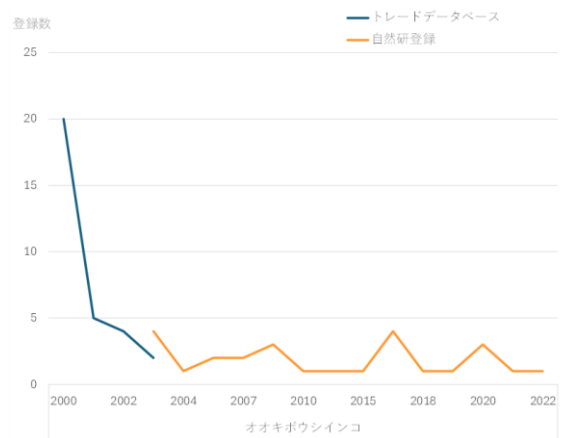
オオバタン (1990 年)



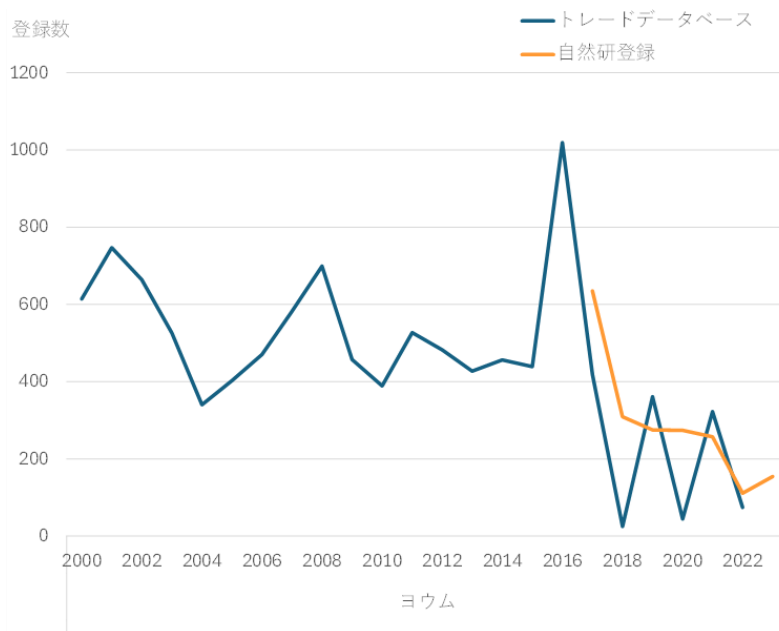
キエリボウシインコ (2003 年)



オオキボウシインコ (2003 年)



ヨウム (2017 年)

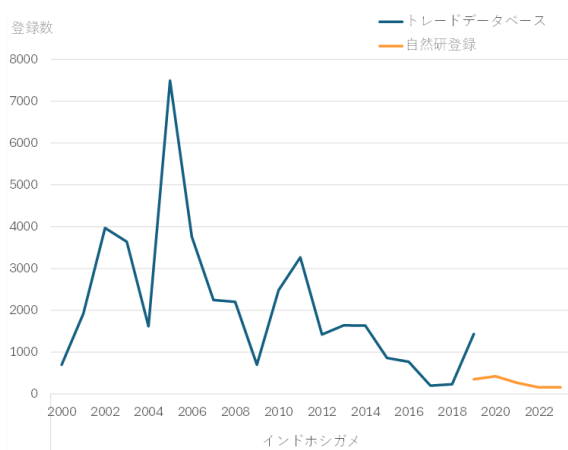


(2) CITES 登録繁殖施設がない種

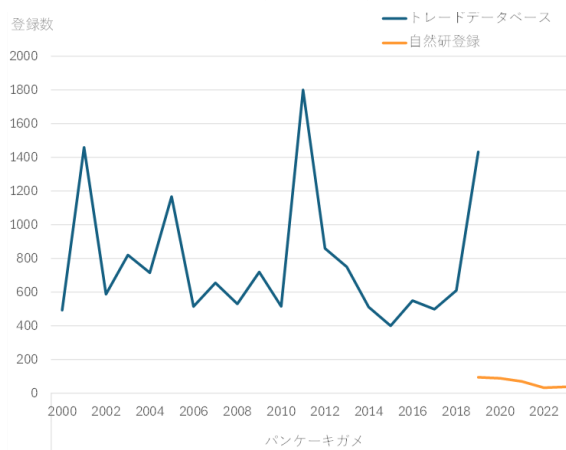
長寿命かつ繁殖力が高い種群のうち、国際希少野生動植物種への指定前に多数輸入されており、国内での繁殖も一定程度確認されているが登録数が多くない（未登録個体が多いと想定される）種として、インドホシガメ（2019 年）、パンケーキガメ（2019 年）、クモノスガメ（2005 年）が挙げられる。

また、繁殖等を行う事業者へのヒアリングにより、クモノスガメやワニトカゲなどについては、飼育が難しい（高度な専門知識が必要とされる）ため、需要が限定的であることが示唆された。

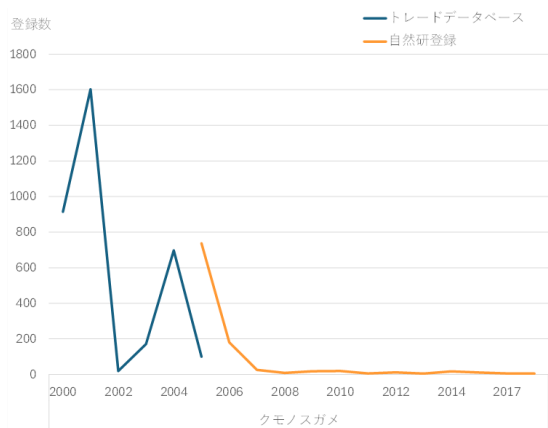
インドホシガメ（2019 年）



パンケーキガメ（2019 年）



クモノスガメ（2005 年）



(参考) ビルマホシガメ（2013 年）

